



公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です
〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-12 G-7ビルディング9階
☎ 03-3541-4771 FAX 03-3541-4783 <https://www.jcancer.jp/>

主な
内容

- 2面 MOD奨励賞受賞者の言葉
3面 MOD奨励賞受賞者現地レポート
6、7面 第7回がん征圧ポスター
デザインコンテスト

2018年度 RFLマイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞

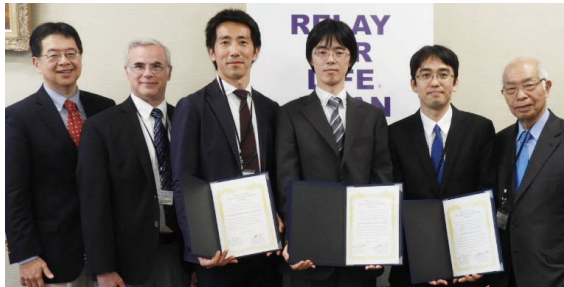
テキサス大学MDアンダーソンがんセンターとシカゴ大学医学部へ

秋山弘樹さん、島津裕さん、宮下穰さんに決定

日本対がん協会は5月17日、東京都中央区朝日新聞社東京本社レセプションルームで「リレー・フォー・ライフ(RFL)マイ・オンコロジー・ドリーム(MOD)奨励賞」の2018年度授賞式を開催した(協力:米テキサス大学MDアンダーソンがんセンター、シカゴ大学、一般社団法人オンコロジー教育推進プロジェクト)。

同賞は日本対がん協会が各地の実行委員会と共に開催しているリレー・フォー・ライフ・ジャパンに寄せられた寄付金をもとに、地域のがん医療の充実を図るために2010年度に設けられた米国における1年間の留学研修プログラム。全米有数のがん専門病院であるテキサス大学MDアンダーソンがんセンターとシカゴ大学の協力と、一般社団法人オンコロジー教育推進プロジェクトの支援の元にこれまで16人の若手医師を米国に送りだしてきた。

今年度の受賞者は東京医科歯科大学医学部付属病院血液内科医員の秋山弘樹医師(35)と、日本赤十字社和歌山医療センター血液内科副部長の島津裕医師(41)、東北大学病院乳腺・内分泌外科講師の宮下穰医師(41)の3人。秋山



左から上野直人教授、ケネス・コエン氏、受賞者の宮下さん、秋山さん、島津さん、垣添忠生・日本対がん協会会長

医師と島津医師がMDアンダーソンがんセンターで、宮下医師がシカゴ大学医学部でそれぞれ1年間研修する。

はじめに後藤尚雄日本対がん協会理事長が3人の受賞を発表。日本対がん協会とリレー・フォー・ライフ・ジャパン実行委員会から奨学金認定書が3人に授与され、受賞者がそれぞれ喜びの言葉を述べた。

その後、垣添忠生・日本対がん協会会長が「同世代のいい友人を作ってください」と期待の言葉をかけた。RFLJ御茶ノ水2019名誉実行委員長の坂下千瑞子・東京医科歯科大学特任助教も「RFLJの仲間たちも応援し、期待しているので、たくさんの宝を持って帰ってきてほしい」と、激励した。

授賞式の後には、MDアンダーソンがんセンター腫瘍内科の上野直人教授と

シカゴ大学医学部血液腫瘍内科のケネス・コエン氏、2014年度の実績でMDアンダーソンに派遣された虎の門病院腫瘍内科医師の三浦裕司氏による記念講演が行われた。

上野教授は、「奨励賞受賞者への期待と研究成果」と題して講演し、留学で研究の手法を学

んでくることが研究成果へ還元しやすく、大切であることを強調。世界からきている人たちとのネットワークをつくり、より患者中心の研究を進め、患者の苦しみを除くことにつなげていくことへの期待を語った。シカゴ大学医学部のコエン氏はこれまで同大に送り出された受賞者が、挙げてきた研究成果なども紹介し、「シカゴ大学では様々な研究プログラムが用意されており、臨床と研究の学習ができる機会をぜひ生かしてほしい」と強調した。

最後に三浦氏が講演。研究の候補をしぼれず、帰国直前になってようやく研究の成果が得られるようになり、帰国を3か月延長した経緯を紹介し、「積極的にやりたいことを最初からどんどんアピールしてください」とアドバイスした。

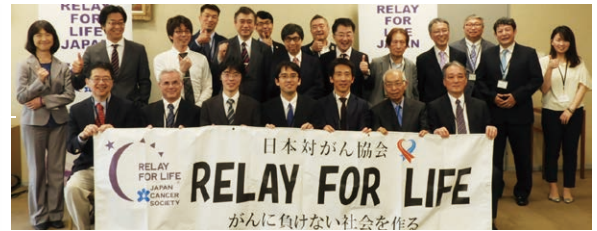
がん相談ホットライン 祝日・年末年始を除く毎日
03-3541-7830

日本対がん協会は、がんに関する不安、日々の生活での悩みなどの相談(無料、電話代は別)に、看護師や社会福祉士が電話で応じる「がん相談ホットライン」(☎03-3541-7830)を開設しています。祝日を除いて毎日午前10時から午後6時まで受け付けています。相談時間は1人20分まで。予約は不要です。

医師による面接・電話相談(要予約)
社労士による就労相談(要予約)
予約専用 03-3541-7835

日本対がん協会は医師による面接・電話相談と社労士による就労の電話相談(ともに無料、電話代は別)を受け付けています。予約・問い合わせは月曜から金曜の午前10時から午後5時までです。医師による相談は電話が1人20分、面接は30分、社労士による電話相談は40分になります。詳しくはホームページ(<https://www.jcancer.jp/>)をご覧ください。

MOD奨励賞受賞者の言葉 「私が成し遂げたいこと」



白血病の予後を大きく改善したい

東京医科歯科大学附属病院血液内科 秋山 弘樹さん



この度はRFLマイオンコロジードリーム奨励賞に選考いただきまして、大変光栄に存じます。また、RFLに関わる皆様や対がん協会をはじめ関係者の方々には深く感謝申し上げます。

私は血液内科医として日々、白血病やリンパ腫といった血液がんの患者様の治療にあたってまいりました。近年の分子標的治療薬の進歩により血液がんの予後は大きく改善していますが、

成人に多い白血病である急性骨髄性白血病についてはなかなか決定的な治療薬が開発されず、厳しい経過となることも多いのが現状です。

私は、そういった患者様の診療に携わる中でどうにか急性骨髄性白血病にも他の血液がんのような治療のブレイクスルーが得られないか、という思いで原因遺伝子を標的とした治療法の研究を行うようになりました。

今回研修させていただくMDアンダーソンがんセンターは、世界中からトップクラスの人材が集まり最先端の設

備で研究が行われているだけでなく、白血病を含む非常に多くの患者様が新薬の治験を含む治療を受けている施設です。そういった環境で、白血病の予後を大きく改善させるような治療の開発を目指すと同時に、帰国後にその経験を日本での血液がん研究や治療の発展に生かせるよう、できる限りのことを学んでくる所存です。

今回の研修がRLFの皆様の思いに支えられたものであることを忘れず、その期待に応えられるよう今後とも努力を続けていきたいと思っております。

血液がんの新しい治療法を開発したい

日本赤十字社和歌山医療センター血液内科 島津 裕さん



この度はこのような素晴らしい賞を受賞させて頂き、そしてMDアンダーソンへの留学の機会を与えて頂き、誠にありがとうございます。RFLを支えて下さっている皆様からの温かい支援と期待を背負ったMOD奨励賞の重みに、身の引き締まる思いであります。皆様の期待に応えられるよう、一生懸命研修して参ります。

私は、血液がんを専門とする血液内

科専門医として日々の診療に携わっている中で、血液がんの治療成績が大きく改善してきたことを実感しています。一つにはがんの特異的な分子標的治療薬、他には免疫療法の登場により、予後はさらに改善しています。

しかしその中でも、私が研究テーマとしているT細胞リンパ腫は希少疾患で標準治療がなく、複数の新規薬剤が登場したもの、未だよい治療はなく、予後はよくありません。T細胞リンパ腫の研究を進めるためには、腫瘍側の

ゲノムとエピゲノムの研究、それに宿主免疫の研究が必要と考えています。

今回MDアンダーソンで研修させて頂く高橋先生は急性白血病に対する最先端のゲノム・エピゲノム研究を進めておられます。私はこれまで免疫の基礎研究も行ってきましたので、その知識を生かして1年間の研修で最先端の研究手法と考え方を習得し、よき研究仲間と切磋琢磨することで日米間に人脈のネットワークを築き、帰国後の研究に生かしたいと考えております。

乳がんの副作用低減などの治療法開発へ

東北大学病院乳腺・内分泌外科 宮下 穰さん



今回このような素晴らしい賞を受賞させていただき、大変有難く思っております。この賞が日本対がん協会、RFLに関わる皆様の思いと寄付金から成り立っているものであり、この場を借りて感謝申し上げます。

私は乳がんを専門とする外科医として、乳がん患者さんの診断、手術治療、薬物治療、そして緩和医療まで全てのステージに携わらせて頂いています。

また、バイオマーカー探索研究や臨床試験にも携わらせて頂いています。

その中で、より効果的な集学的治療や、副作用や治療抵抗性を予測しながら戦略を立てる必要性を感じています。患者さんがストレス無く治療を受けられ、がんに罹患しても前向きに幸せな人生を歩めること、それを実現していくことが我々の責務と考えています。

私はこれまで乳がんにおける腫瘍免疫の研究を行ってきました。そのなかで免疫治療をより効果的に行うために

は他の治療モダリティによる腫瘍免疫微小環境の修飾が重要だと考えております。それを解明していくことが最終的には副作用を軽減したり治療抵抗性を回避したりするような治療の開発に結び付くものと考えており、そのような研究をシカゴ大で行っていければと思います。

このような貴重な機会を頂いたのは幸運であり、ぜひこのチャンスを最大限に生かして、将来的には日本のがん治療に貢献できるように頑張っていきたいと考えております。

マイ・オンコロジー・ ドリーム奨励賞

2017年度受賞者現地レポート

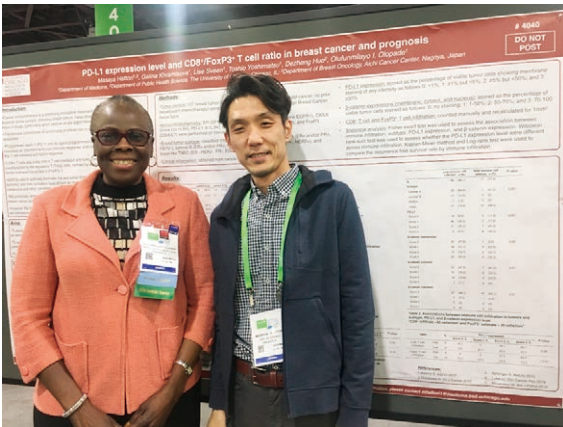
「シカゴ大学で研修を始めて」

リレー・フォー・ライフ(RFL)に寄せられた寄付金をもとに、地域のがん医療の充実をはかるために若手医師を奨学医としてアメリカに派遣するRFLマイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞を受賞して、現在シカゴ大学医学部で研修中の、服部正也さんから現地レポートが届きました。

がん患者や家族の夢をのせて、慣れない環境の中でも必死に研修に励む服部さんに現地で取り組みや研修を始めての思いなどを報告してもらいました。

乳がんの新規治療のバイオマーカーを探索

愛知県がんセンター乳腺科 服部 正也



米国癌学会(AACR)でメンターのOlopade教授と

2017年度の日本対がん協会主催のRFLマイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞をいただき、2018年10月からシカゴ大学医学部Biological Science Division、血液腫瘍内科教授のOlufunmilayo I. Olopade先生の研究室で客員研究員として研修をしています。私の所属する同研究室は、米国人のみならずロシア、中国、ナイジェリア、ノルウェー、韓国、インドなど世界各国から様々なバックグラウンドを持つ人材が集まり、また教授自身もナイジェリア人という米国らしい非常に国際色豊かな研究室です。

私の米国でのメンターであるOlopade教授は、遺伝性乳がんの原因遺伝子であるBRCA1/2遺伝子の基礎研究からそのリスクアセスメントに関わる臨床研究、また乳がんの統合的な遺伝情報解析などでとても有名で、私は同研究室で統合的な遺伝情報解析を用いた乳がんの新規治療へのバイオマーカー探索研究に携わっています。

教授の、一つ一つの研究によって、より多くの方が乳がんで人生を左右されることを減らしたいという情熱がラ

ボの多国籍のメンバーの様々な研究のモチベーションにつながっているように感じます。私もその情熱に感化されながら、少しでも自分の研究が乳がんによって家族や友人との時間を奪われてしまう人が少なくなるにつなげるようにと思いつながるようになっています。

こちらでは研究部門だけ

ではなく臨床部門にもいくつか参加させていただいています。毎週木曜日は朝7時半から10時近くまで、乳がんを専門とする放射線診断医、病理医、腫瘍外科医、形成外科医、腫瘍内科医、放射線治療医、看護師、ソーシャルワーカー、遺伝カウンセラーなど多くの職種が集まるmultidisciplinaryカンファレンスに参加し、その後、Olopade教授の外来につかせてもらい米国の実際の診療を学ばせていただいています。

患者の声も聞き、研究

外来の中では米国の実際の患者さんの声や思いを聞くことができ、またBRCA1/2遺伝子変異を持つ患者さんも多く、家族を含めたリスクアセスメントを学ばせてもらっています。皆ではないですが、BRCA1/2遺伝子変異を持つ患者さんの多くが会話の中で変異を知ってよかったと話をされます。国による文化の違いもあるかとは思いますが、そのように捉えることができる環境が整備されることは非常に重要であると感じます。

こちらにきてはや半年が経ち、短い

期間ではありますが、イチロー選手が引退会見で語られた「外国人になったこと」を様々な場面で感じます。その一方、米国の生活に違和感を覚えることが少なくなり、「普通」に毎日を過ごしているように思います。食生活ではたまに「出汁」の味が恋しくなりますが、お肉やピザなど米国ならではの食事を楽しんでいます。

冬の寒さはこれまでにない経験で、今年マイナス30度近くまで下がる日があり、外に出るとすぐまつ毛が凍るといいう体験をしました。また、シカゴの美術館や博物館、科学館の多くはシカゴ市民無料の日が設定されており、特に自宅から近いシカゴ美術館には何度も家族で訪れ楽しんでいきます。

これらの多くの経験が、研究や臨床のみならず、文化や考え方の違いまでを含めて多くを学ばせてくれていると感じています。このような経験をさせていただいていることを対がん協会、マイ・オンコロジー・ドリームに関わる多くの皆様に感謝し、また私の日本、米国のメンターや同僚、そして一緒に米国での生活を楽しんでくれている家族にも感謝をし、これからも日々目の前のことに一つずつ取り組んでいきたいと思っています。



シカゴで今年最も寒かった日の気温

2019年RFLJ幕開け

東京御茶ノ水を皮切り

大分中津は初開催

2019年度の最初のリレーイベント「東京御茶ノ水」が5月11日、12日に東京・文京区の東京医科歯科大学キャンパスで開催された。3回目となる今年は、同大大学院時代に副実行委員長として参加し、現在は東京大学医学部附属病院の臨床検査技師となった柴山春奈さんが実行委員長に。高校生チームを含む23チームが参加し、見晴らしの良い「知と癒しの庭」と名付けられた屋外テラスと、大講堂を主な会場にして、高層ビルを背景に約1000人がウォークした。

柴山実行委員長は、昨年、母親が大腸がんになり、つらいときがあった



さわやかにスタート(東京御茶ノ水RFLJ)

が、リレーをやっていたことで周りの人達色々話しをきいてもらうなどして助けてもらい、自分を取り戻して前を向けるようになったという。「決して一人ではないことや、周りには助けてくれる仲間がいることを、このイベントを通して一人でも多くの人に伝えたい」と開会宣言であいさつし、リレーの力を訴えた。

医大での開催らしく、がんを学ぼう講座も開かれ、免疫チェックポイント阻害剤「オプジーボ」の開発にかかわった岩井佳子・日本医科大学教授の講演やがん検診について語り合うパネルディスカッションなどが行われた。

初開催の大分中津に約870人参加

5月18日、19日には初開催となったRFLJ大分中津が大分県中津市の三光総合運動公園で開かれた。大分県では大分市に次いで2カ所目だが、同県北部のがんサバイバーも参加しやすいようにと、大分でも実行委員を務めて



初開催のRFLJ大分中津

いた福山康朗・中津市民病院がんセンター長が実行委員長となって実行員委員会を立ち上げ、開催にこぎつけた。

地元の医療機関の職員や市役所、高校などの14チームが参加し、約870人がウォークした。福山実行委員長は「中津でリレー・フォー・ライフをやりたい、という念願がかないました。多くのサバイバーさんにもご参加いただき、雨の中皆さんが元気に歩く姿に感動しました。また、来年お会いしましょう」と語った。

5月はこのほか、茨城、熊本、和歌山、宮崎でも開かれ、今年度は50か所での開催が予定されている。

がん患者・家族の希望となるために
「RFLプロジェクト未来研究助成金」

公募開始

公益財団法人日本対がん協会は6月10日付で、日本国内のがん研究を助成する、「リレー・フォー・ライフ(RFL)プロジェクト未来研究助成金」の公募を開始した(協力:日本癌学会、一般社団法人日本癌治療学会、公益社団法人日本臨床腫瘍学会)。

この助成制度は同協会が開催する、がん患者・家族の方々を支援するイベント「リレー・フォー・ライフ」を通じて寄せられた寄付金を基に設けられ、今年度で8回目となる。将来の画期的ながん治療や、患者のQOL改善に役立つような基礎研究・臨床研究、患者・家族のケアに関する研究に対して、一件当たり最大300万円を助成する。

2018年度は67件の応募があり、分野Ⅰから10件、分野Ⅱから10件、合

計20件の研究を採択した。2019年度もがん患者や家族など支援者の夢の実現につながるような研究を広く公募す

る。詳しくはリレー・フォー・ライフのホームページ内の「プロジェクト未来」のページをご確認ください。

対象: [分野Ⅰ]…基礎研究・臨床研究(がんの発症メカニズムの解明に向けた基礎研究、新薬開発に関わる基礎・臨床研究、臨床試験、疫学研究等)

[分野Ⅱ]…がんの支持療法、社会面に関する研究(患者・サバイバー・家族の支援、就労、治療後遺症、リハビリ、口腔ケア、がん相談に関する研究等)

助成金: 1件300万円を限度とする(総額1500万円以内)。研究が複数年にわたる場合は、年度ごとに申請(最長3年)。

応募方法: リレー・フォー・ライフホームページ内の「プロジェクト未来」のページ(https://relayforlife.jp/project-mirai#research_grant)からダウンロードした研究助成金申請書に必要事項を明記の上、必要な資料を添えて郵送またはE-mailで応募する。

募集期間: 2019年6月10日(月)～7月26日(金)17:00(必着)

問い合わせ: 日本対がん協会「プロジェクト未来」研究助成金係
電話03-3541-4771

がん相談などを支援 資生堂花椿基金の寄付金目録贈呈式

4月22日、東京都港区の資生堂本社で、同社の2018年度花椿基金寄付金目録贈呈式があり、同基金の支援を受ける日本対がん協会も出席した。

花椿基金は、資生堂の社会貢献事業。同社の社員が、給与引きで一口100円から参加できる。

支援対象は10団体。日本対がん協会は、2018年度に約40万円の寄付を受けて、無料のがん相談事業などに活かしている。

また、日本対がん協会と同社ライフクオリティービューティーセンターは、抗がん剤治療の副作用をカバーする外見ケアを随時、共催している。

●外見ケアで前を向ける

贈呈式中村智志事務局次長は、「以前、対がん協会のイベントで、資生堂の方が『資生堂は、化粧の力でQOL(生活の質)向上に向けた活動を行っています』とおっしゃっていました。外

見ケアを受けた方は『自信を持って街に出られるようになった』『これで仕事に復帰できる』などと前を向けることが多い。笑いは免疫力をアップします。『外見ケアを受けると治療成績がよくなることを証明したい』と話す医師もいます」と感謝を述べた。

この日はほかの団体も参加し、花椿基金を活用した活動を報告した。

WWFジャパンは、インドネシアの熱帯林保護のため持続可能な「認証パーム油」の生産農家を育成している。全国女性シェルターネットは、何も持たずに母子でDV被害から逃げてきた子どもの進学・就学を支援している。

紫外線を浴びると高い確率で皮膚がんやさまざまな神経症状を発症する難病XPの子どもの親たちで作る「全国色素性乾皮症(XP)連絡会」は、紫外線防御用品の購入や勉強会などを行う。「ジョイセフ」は、アフリカ・ザンビアの女



目録をいただき、気持ちを引きしめる

性が安全に出産できる保健施設を整備し、出産キットを提供している。

このように、多様な活動をサポートする花椿基金の支援先は、毎年、資生堂の運営委員が審査会で決める。その一つとして、選ばれ続けていることは、大きな励み。日本対がん協会は、今後も花椿基金を患者支援に活かしたいと考えている。

埼玉西武ライオンズ

「LIONS HAPPY MOTHER'S DAY」 イベントに出展

母の日に先駆け、ゴールデンウィーク最終日の5月6日に、西武ライオンズが東北楽天イーグルスとの試合に合わせ「LIONS HAPPY MOTHER'S DAY」を開催した。日本対がん協会も埼玉県支部(埼玉県健康づくり事業団)と協力してメットライフドーム前広場に啓発ブースを出展し、乳がん、子宮頸がんの

啓発活動を行った。

啓発ブースでは、乳がんと子宮頸がんに関する女性がんクイズ、お母さんへのメッセージ書きコーナー、乳がん無料検診などを実施し、約400人以上の親子連れらが立ち寄り、にぎわった。ブースには西武ライオンズのマスコットも参加、クイズの正解に応じてグッズをプレゼン

トするコーナーには長蛇の行列もできた。

乳がん無料検診は定員が30人だったが、申し込み者がそれを上回るほどの人気で、「ずっと検診を受けなければと思っていて受けずに過ごしてしまったのが球場に来て受けられてよかった」などの声が聞かれた。



クイズに取り組む親子連れら



日本対がん協会ブース前には行列も

第7回 がん征圧ポスターデザインコンテスト 受賞者決定

森山 早雲さん(岡山県立岡山南高校)が最優秀賞



審査員一同で最優秀賞作品を囲む

若い世代にがんについて知ってもらい、新鮮な発想とデザインでがん検診の受診を呼びかけてもらうことを目的として、学生を対象に公募した「第7回がん征圧ポスターデザインコンテスト」の審査

最優秀賞 もりがみ さくも
森上 早雲さん

岡山県立岡山南高等学校 情報処理科 2年

会が4月17日に東京・中央区の朝日新聞本社レセプションルームで開催され、入賞作品が決定した。今回より、作品の応募をすべて電子データでも受け付け、115作品の応募があった。

その中で、森山早雲さん(岡山県立岡山南高校)の作品「『大丈夫?』」が最優秀賞に選ばれた。高校生の作品が最優秀賞となるのは初めて。森山さんは「最優秀賞になり、めちゃくちゃうれしいです。高校生では初めてときいてびっくりしました。自分は大丈夫と思っている人が多いでしょうが、この作品をみて気軽に検診を受けてもらえるようになればいいです」と受賞のコメントを寄せた。森山さんには副賞として賞金10万円が贈られ、作品はポスター化し9月のがん征圧月間に合わせて全国の自治体、保健所、病院などで掲示される予定になっている。

優秀賞は、中山亮さん(愛知工業大学)の「小さな危険」、佐藤里菜さん(静岡文化芸術大学大学院)の「母からの電話」、宮田怜佳さん(東京造形大学)の「疑え」、井澤詩萌さん(岡学園トータルデザインアカデミー)の「倒れる前に」の4点。優秀賞は3点の予定だったが、優秀作が多く、今回は特別に4点となった。

コンテストの審査員は、栗辻美早(グラフィックデザイナー)、猪俣研次(厚生労働省健康局がん・疾病対策課課長補佐)、岸田徹(NPO法人がんノート代表理事)、後藤尚雄(日本対がん協会理事長)、中川恵一(東京大学医学部附属病院放射線科准教授/放射線治療部門長)、廣村正彰(グラフィックデザイナー)、本田亮(クリエイティブディレクター)、本多昭彦(日本対がん協会 広報グループマネジャー)の8人が務めた。

審査後の総評では「全体的にレベルが高く、バラエティにも富み、何を表現するかを考え抜かれた作品がそろった」という声があがった。

最終選考に残った8作品は「入選」となった。



「大丈夫?」

【作品説明】

家族、友人から病院に行くのを勧められても「まだ、大丈夫」と勝手に自己診断をして行かない人が多いと聞きました。本当に大丈夫だと思えるために病院できちんと診てもらって欲しいというメッセージを込めてデザインしました。

【栗辻美早先生の講評】

虫メガネを上手く使った、アイデアあるコトバ遊び。インパクトの強い大胆な構成が、とても印象に残りました。言葉の中に隠されたメッセージは、多くの人が抵抗なく自分への忠告として受け止めるでしょう。この作品には、検診を後回しにしている人々の背中を押す力を感じます。

※学年は2019年3月の応募時のもの

入選

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| 本田裕一朗(専門学校穴吹デザインカレッジ) | 一歩踏み出せば |
| 佐藤 里菜(静岡文化芸術大学大学院) | あなたか、あなたの大切なひと。どちらかのはなしです。 |
| 中川 翠(倉敷市立短期大学) | 関係ないなんて 言わせない。 |
| 石田 晴也(静岡産業技術専門学校) | 命のかたむき |
| 鈴木 遼太(明治大学) | 巣食われる前に救われよう |
| 山内虹渡子(大阪成蹊大学) | がんけんしんにいこう |
| 三澤 奏子(金城大学短期大学部) | 見つけようとしなだけで。 |
| 藤井 彩未(河原デザイン・アート専門学校) | 今ならまだ、きれいに消せる。 |

※敬称略、順不同

優秀賞

なかやま りょう
中山 亮さん
 愛知工業大学
 情報科学部 2年



「小さな危険」

【作品説明】

全体の構成はシンプルにして、中心の図形は放置しているとどんどん成長していくという意味を込めて余白を全面的に使いました。今後、余白を黒くしていくのか、それとも白くするのはあなたの行動次第であるというメッセージ性も込めています。

【本田亮先生の講評】

たくさんの秀作がそろった中で白スペースが大胆なデザインが目をついた。最優秀賞にするべきだという声もあったが過

去に類似アイデアがあったために優秀賞となった。シンプルなデザインでも、スペースや色の使い方、コピーワークに高いディレクション能力を感じる。

みやた りょうか
宮田 怜佳さん
 東京造形大学
 デザイン学科 2年



「疑え」

【作品説明】

日本人の2分の1が人生に1度はがんになるという話を聞いて、自分も含めて同じ場にいる誰かが今この瞬間ががんになってもおかしくないと思いました。誰もががんになりうるという事を「癌」という漢字そっくりの存在しない漢字で表現しました。全体の半分の数ずつを「癌」と「癌かもしれない」漢字でランダムに埋め、誰かががんになってもおかしくないという事を表しています。

【本田亮先生の講評】

日本人の2人に1人ががんになるという表現が多い中でこの作品がもっともビジュアルインパクトがあった。まだ「癌」になっていない人にも可能性がある。今は「癌」の一手手前かもしれないという恐怖を感じることができる。見る人が自分事として考えさせられる作品である。

さとう りな
佐藤 里菜さん
 静岡文化芸術大学大学院
 デザイン研究科 1年



「母からの電話」

【作品説明】

一人暮らしをする子供をついつい心配してしまうのが親心です。「ちゃんと食べてる？」は健康を気遣う常套句ですが、それと同じくらい「がん検診には行った？」と聞くことが当たり前になってほしいとの願いを込めました。コピーには「がん」という強い言葉を使わず、左下の協会名を見ることで初めて「がん検診」と分かるように配慮しました。

【栗辻美早先生の講評】

少し前屈みに心配する

母の姿が、イラストの優しいタッチによって、より深い愛情を感じさせます。自分を心配している人のために、その人を安心させるために。心あたまる母の問いかけが、若い人たちの心にもきっと届くはずで

いざわ しほ
井澤 詩萌さん
 岡学園トータルデザインアカデミー
 デザインビジネス科 1年



「倒れる前に」

【作品説明】

がんにかかり倒れてしまう人をドミノで例え、「ドミノが最後まで倒れる前に検診へ」=「自分が倒れる前に検診へ行くこと」をかけたデザインにしました。

【本田亮先生の講評】

がんが進行する前に検診に行こうというメッセージがシンプルなデザインでユーモラスに表現されている。一方で倒れるのは「癌」ではなくて「人」ではないかという意見も出て、人によって捉え方が違う作品となった。しかし、アイデアのユニークさを評価して優秀賞とすることにした。

2017年度グループ支部 がん検診の実施状況から ◆肺がん

■全体 男女合計

支部名	受診者数 (A)	要精検者数 (B)	精検受診者数 (C)	精検の結果					精検不要の人数 (E)	がん発見率 (D/A)	陽性反応 的中度 (D/B)
				がん(D)	がん疑い	がん以外の疾患	異常なし	その他			
北海道	94,142	2,218	2,060	96	0	1,294	670	0	91,924	0.10%	4.33%
青森	90,641	2,251	2,018	58	76	1,055	751	78	88,390	0.06%	2.58%
岩手	36,081	231	202	16	0	114	69	3	35,850	0.04%	6.93%
宮城	14,543	31	29	5	12	1	3	8	14,512	0.03%	16.13%
秋田	62,890	2,379	2,086	46	51	853	1,135	1	60,511	0.07%	1.93%
山形	89,513	3,900	3,410	43	59	1,619	1,689	0	85,613	0.05%	1.10%
福島	191,094	2,450	2,077	64	43	774	1,006	161	188,644	0.03%	2.61%
茨城	218,019	5,472	4,647	132	55	2,451	1,553	456	212,547	0.06%	2.41%
栃木	80,339	1,235	1,018	16	93	468	441	0	79,104	0.02%	1.30%
群馬	118,562	775	655	68	26	361	200	0	117,787	0.06%	8.77%
埼玉	51,176	1,273	932	12	39	471	363	47	49,903	0.02%	0.94%
千葉	291,747	4,530	2,976	125	66	2,032	750	3	287,217	0.04%	2.76%
新潟	217,064	6,376	5,831	115	354	48	2,281	3,002	210,688	0.05%	1.80%
山梨	18,739	1,485	1,231	16	15	771	401	0	17,254	0.09%	1.08%
長野	72,779	1,019	908	52	120	266	303	139	71,760	0.07%	5.10%
富山	3,217	72	57	3	6	21	4	23	3,145	0.09%	4.17%
石川	26,284	661	556	22	11	1	225	297	25,623	0.08%	3.33%
福井	57,335	2,701	1,873	28	0	1,017	827	1	54,634	0.05%	1.04%
愛知	23,132	422	308	13	15	176	78	26	22,710	0.06%	3.08%
三重	26,673	520	455	11	43	214	185	2	26,153	0.04%	2.12%
滋賀	13,383	261	222	10	8	149	57	3	13,122	0.07%	3.83%
京都	150,470	1,789	91	0	3	59	26	3	148,681	0.00%	0.00%
兵庫	226,743	2,347	1,537	71	29	1,056	367	0	224,396	0.03%	3.03%
奈良	2,623	44	40	2	2	24	10	2	2,579	0.08%	4.55%
和歌山	59,471	964	487	12	7	198	270	0	58,507	0.02%	1.24%
鳥取	26,643	1,016	877	12	63	472	333	0	25,627	0.05%	1.18%
島根	33,934	1,562	608	19	31	778	492	20	32,372	0.06%	1.22%
岡山	107,763	1,650	1,022	25	61	571	176	233	106,113	0.02%	1.52%
広島	23,932	678	533	16	19	324	170	4	23,254	0.07%	2.36%
山口	26,790	1,318	640	35	0	289	306	10	25,472	0.13%	2.66%
徳島	29,774	910	776	32	13	394	245	92	28,864	0.11%	3.52%
香川	75,257	1,047	951	54	15	666	216	0	74,210	0.07%	5.16%
愛媛	59,911	681	620	40	27	454	97	2	59,230	0.07%	5.87%
高知	141,726	1,205	973	47	53	593	279	1	140,521	0.03%	3.90%
福岡	47,226	1,765	1,566	37	28	740	543	222	45,461	0.08%	2.10%
佐賀	53,780	1,006	830	13	37	473	277	30	52,774	0.02%	1.29%
長崎	39,062	1,011	879	32	23	610	207	7	38,051	0.08%	3.17%
熊本	57,847	201	167	17	4	85	47	14	57,646	0.03%	8.46%
大分	24,237	559	490	9	11	299	171	0	23,678	0.04%	1.61%
宮崎	48,668	635	577	50	44	346	112	25	48,033	0.10%	7.87%
鹿児島	144,567	3,737	3,451	131	109	2,071	1,140	0	140,830	0.09%	3.51%
沖縄	106,028	1,258	883	14	22	322	241	284	104,770	0.01%	1.11%
合計	3,283,805	65,645	51,549	1,619	1,693	24,980	18,716	5,199	3,218,160	0.05%	2.47%

古本で日本対がん協会に寄付ができます

読み終えた本やDVDなどを活用しませんか？

詳しくは「チャリボン」 <https://www.charibon.jp/partner/JCS/>
(ISDNのバーコードがついた書籍類が対象です)

charibon by VALLE BOOKS

お問合せ(株式会社バリューブックス): 0120-826-295
受付時間: 10:00-21:00(月~土) 10:00-17:00(日)